

「HSK 季刊わたぼうし」 第59号

発行者:わたぼうし連絡会

発行日:2002年(平成14年) 11月3日 '02秋号

第59号の特集

特別企画・紙上講演会

谷口 明弘さんとのQ & A

2001年12月9日(土)

「青山彩光苑」の障害者週間イベント講演会にて

台風は 日本の秋を 恋しがり

比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

特別企画・紙上講演会

谷口 明弘さんとのQ&A

日 時：2001年12月9日(土)

場 所：「青山彩光苑」障害者週間イベントの講演会にて

文 責：金沢市・秋本 信子

お詫びとお断り

今回は来年4月よりスタートの「支援費制度について」の講演録予定をしていましたが、テープ起こし作業が大幅に遅れ、ただ今、講師の方に原稿の確認作業をお願いしていますので、次号に掲載させていただきます。

その代わりに金沢市の秋本信子さんのご協力により、昨年12月9日に青山彩光苑において行われた谷口明弘さんの講演においての、会場とのQ&Aのテープ起こしを掲載させていただきます。以下は講師の点検済みです。

あとは質問コーナーにしていきたいと思います。えー、いろいろと厳しいことを言いましたが、現実には本当にそういう世界（幸せになるのは自分の力です。人は幸せにはしてくれません。本当に幸せは追いかけていかないとダメです。待っていたって、誰も来ない）になっていきます。障害を持っている人たちは頑張らないといけません。

私は今まで「頑張るな」と言ってきました。だけど、本当にここ一番では頑張らないといけません。皆さん、危機感を持って、本当に頑張って下さい。夢を追いかけて下さい。夢を持つことから始めていただいたら、幸せな人生、歩めるんじゃないかな。

Q：障害の等級を、決めるのは役場ですか？

A：いいご質問をいただきました。今までは障害者手帳というのは、1級～6級までありました。一番重い方は1級、次は2・3・4・5・6級。これから等級は、余り関係なくなります。何故かという、1級でも歩いている人いるやん。1級というのは「全面的介助を必要とする」と書いてあるねん。赤ちゃんの時は歩けへんでも、今は頑張って歩けるようになった人と、本当に寝たっきりの人と同じというのはおかしいでしょ。今度からはそれを厳重に見ます。

手帳というのは、自分から「変えて下さいね」と言わない限り、変えなくていいんです。知的障害の人の手帳は、2年に一回変えないといけないんです。精神障害者の手帳は、毎年変えないといけないんです。けども、身体障害者の手帳は、一回とったら死ぬまで変えなくていいんです。僕の友だちなんか、手帳に赤ちゃんの写真張ってあるん。身分証明書にもならない。それで「OK」なのです。

これからは手帳1級でも、ちゃんと役所の人が調べに来ます。そして、「何が出来るか」全部調べに来ます。それで全部チェックしていきまして、「貴方は1級持っても軽いね。1級なんて関係ないよ」という世界になるのです。

だから今までは、「どれぐらいのことが出来ないか」というので等級が決まっていたでしょ。これはこれからも変わらないのですが、これからは自分に下りてくるお金が、「どれだけなのか」と決めるのは、「日常生活でどれだけ困っているか」ということで決まるのですよ。だから1級持っても、自分で歩いて、自分でご飯食べて、自分でトイレ行けて、自分で着替えられる人は、1級持っても下りてくるお金は少なくなります。。心配ありません。年金ではありませんよ。介護に関するお金です。

でもね障害を持った皆さん、これからいい時代が来ると思っています。いろんなところへ行くと、本当に悪い家族の方がいらっしゃるんです。年金をあてにして会いに来て、年金だけお持ち帰り、というご家族の方がいらっしゃるんですね。今度から心配しないで下さい。今度からは食費は自分で払わないといけないんです。年金を自分で持ってないと飢え死にします。だから、レクリエーションのお金も自分で出さないといけない。やっとなんか年金が家族のものではなくて自分のものになります。

そういう時代が来ます。だから、今までの制度が、ガラツと変わります。その代わり、自分で持ったお金は、自分で管理して下さい。パーと使いきったらご飯食べれません。だから皆さんの生活は、皆さんでやっていって下さい。

それで皆さんの仲間の中で、お金の計算に弱い人がいたら、施設の職員さんをお願いするか、施設長さんをお願いするか、それよりも一番いいのは、友人に頼むというのも良いと思います。施設の同じ雰囲気を感じてもらおう。その代わり月々10円払う（笑）。それでもいいと思うのです。ですから自分でちゃんと小遣い帳を付けてさ。皆さん嘘と思うかも知れませんが、僕も小遣い帳を付けているのです。

Q：仕事は手話通訳をしています。仕事を離れますと、手話サークルの会員として、聴覚の方とお付き合いをしています。いつも“共に生きる”とかというのがあるのですが、たとえばボランティアについて、お聞きしたいのです。手話では、ボランティアのことを、「ご苦労をあげる」というような手話を10年ほど前まではやっていたのです。ですが最近、「共に歩くということがボランティア」と。

最近の通訳者は、「お世話をあげる」というような手話を使わずに、「共に歩く」というような手話に10年くらい前からなったんですね。私はいつも、「共に歩むというのは、共に生きるという意味」だと思のです。谷口さんがお考えになるボランティア像と、そして「共に生きる」ということは、どういうことなのかということをお聞かせ願いたいなと思います。

A：私は、「共に生きる」という意味は、いつも二つの意味を付けています。一つは、「障害を持っている方と、持たない方が共に生きる」。もう一つは何だと思いますか？

私は、「障害を持っている方が、やっぱり障害と共に生きてもらわないといけないんだな」と思っています。皆さんの中で、中途障害になった人も多いと思います。とくに、中途障害の方は、自分の障害を憎んでいる方が多いと思うんです。嫌っている方が多いと思うんです。それから、もともと子供の頃から障害を持っている方も、私もそうだったので。私も、アメリカへ行くまでの26歳まで、メチャクチャ、自分の障害は嫌いでした。

自分も思っていたんですよ。「障害なかったら、もっといろんな楽しいことできるのにな。障害なかったら、女の子と手をつないで歩けるのにな」と思っていました。「もっといろんなことできるのにな」、そうずっと思っていた。

ある時に、気が付いたのです。アメリカ人の、それもバリバリやってる人がいてね、障害を憎んでいない。障害と共に、楽しく生きていますよ。それで障害を逆に自分で、可愛がりながら生きているんやなと思ったんですね。私はその時、思いました。

うちの奥さん、いつ喧嘩して出て行くかわかりません。でも障害は、出て行かない。障害はもしかしたら、ベストパートナーかも知れない。私は昔は障害が嫌いな頃は、自分の障害と喧嘩をしていたと思います。自分の体調が悪いときなど、すぐ障害のせいにする。例えば、恋愛で失敗したときなどは、障害がなければうまくやっていたのになーと思う。

こういうことをズーと繰り返しているうちに、障害は私を攻撃してくるんですね。私ね、時々、緊張が強くなる時がありました。調子が悪くなって、身体がものすごく硬くなる時がありました。

けどね、自分でそう思ってから、自分で障害と仲良くしていこうと思ってから、私の緊張がなくなっていきました。今ではね、体調が悪い日などほとんどないです。二日酔いを除いては（笑）。本当にないんですよ。今はメチャクチャ、健康です。緊張も強くありません。私は高校生以来、緊張緩和薬、飲んだことないです。

私の障害から言うと、緊張が強くなるはずなのです。熱出た後とか、寝不足とか。私は脳性マヒです。脳性マヒというのは、精神状態と身体がホントに同じなのです。だから落ち込んだりしたら身体が硬くなるんです。だからこそ障害と仲良くしていきたい。障害と共に生きていってほしいんです。

よくこういう子がいるんです。20歳位の男の子が僕の所へ来て言うんです。「僕、もてないんです。障害がなかったらもてたのに」と。私はその子のことを30分ぐらい話を聞いて、最後に何と言うてやるかという、「お前は障害がなくでも、もてへんわ。もっと人間を磨きなさい。もっと苦労しなさい」と言うんですね。これが私の「共に生きる」という題名です。

それともう一つ聞いて下さい。今ね、ボランティアの話が出ました。手話のお話で。「援助を差し上げる。支援を差し上げる」というのは昔のボランティアさんでした。これはね、仕方ないんですよ。昔、ボランティアのことを日本語で奉仕といいました。奉仕というのは、自分を殺して相手のために捧げるといのが奉仕です。それに今は「共に生きる」とおっしゃいました。「共に歩く」と。

あのね、僕ね、もうこの時代も終わったと思うんです。ボランティアさんが共に生きる

というのはまだいいかもしれません。けどね、この頃ね、施設職員さんとか福祉のプロパー（専門家）もね「共に生きる」という言葉をつかっちゃうんです。けどね、僕ではダメだと思います。

これからはね、福祉の専門家は一步後ろを歩く。共に歩くんじゃない。その人が歩いてる姿を見ないといけないですね。共に並んで歩いていたら見えないでしょ。共に歩んでいると、ついつい自分の思いに引っ張り込んでしまう。けどね後ろを歩いていると違うんですよ。その人が左の道へ行ったら左へ付いて行って、その中で「どうするか」ということを考えないといけない。だからね、僕はこれからの専門家は一步後ろを歩く。With（共に）ではないですね、behind（後ろ）です。後ろについて歩いてもらわないといけない。僕はボランティアさんは共に生きたらいいと思うのです。ボランティアさんは友達である人だと思います。友達になりうる人だと思います。

専門家は友達になってはいけない人です。ですから専門家は、後ろから見ていて落ちそうになったら後ろから言えばいいんです。「あと三步で落ちるぞ」と言えばいいのです。前を歩いている人は、落ちたければ落ちればいいのです。専門家は「やっぱり落ちたやろ。今、落ちる言うたやろ」とこう言うたらいいんです。それが専門家なのです。最後に落ちるかどうかを決めるのはその人なんです。

けど、今までは一緒に落ちるのが、福祉の専門家ですというてました。それは間違いです。一緒に落ちてたら、貴方も怪我するやん。専門家は怪我しちゃいけない。専門家はいつでも、冷静に三步後ろを歩いている。そして、「左へ行ったら落ちるけど、右の道へ行ったらなんとか落ちないですむよ。貴方はどっちを選ぶ？」と。けど、そいつが「左へ行って、落ちたい」と言うたら、落ちたらいいですよ。けどね、気をつけてください。落ちたら死んじゃうんだったら、タックルしてでも止めて下さい。けど、捻挫とか骨折で終わるんだったら、落としてみよう（笑）。これが専門家やと思います。それを見極めるのが専門家です。“命を落とすか、捻挫で終わるか”を見極めるのがプロです。

ですから、with（共に）という考え方よりは、ちょっと後ろを歩く、というのがこれからの専門家で、ボランティアさんというのは一緒に歩くのでいいと思っています。

Q:40歳を過ぎてから大学院で学び始めたものです。現在アメリカで45箇所ありますセルフヘルプ・クリアリングハウスを勉強しているものです。その可能性が日本でどの程度出来るものなのかなあと考えているものです。現在大阪で、セルフヘルプ支援センターというのがありますけど、今、先生のお話を伺っていて、そういう支援というの、いろいろと誤解を招くかなと。クリアリングハウスMUSASIなどというところもありますけど、現在の、日本における可能性というものを、先生からお聞かせ願いたいと思います。

A:あのね、40歳を過ぎてから学ぶということは大変なことですよ。私もね、40歳過ぎてから記憶力がめっきり落ちました。私は昔からね、自分で字を書けないから、記憶力だ

けが頼りだったんですよ。けどね、もう年には勝てない。40歳を越えたら、私はモバイルを持つようになりました。大事なことは書き留めるようになりました。けどね、昔は生きてる電話帳”と言われていた。まず友達が104番かけるよりも私の方が正しいねん。それくらいだったんですけど、今は忘れますね。だけど、私も45歳で、まだ勉強をしていますけど。私もえらいでしょ（笑）。

私の話をズーと聞かれていて、「もしかしたら谷口さんは施設嫌いなんちゃうかな」と思われた方もいらっしゃるんじゃないかと思います。けどね、僕はね、施設は嫌いではないんです。私の嫌いなのはね、大きな施設。あの、アメリカからね、施設がなくなったというのは、僕は嘘だと思います。今、アメリカへ行って、施叙がなくなったとは僕は思わない。どういう考えでいるかという、僕は施設が小さくなったと思ってる。

これ皆さん、考えてみてください。例えばね、100人の施設を作ろうと思ったら、山奥でしか土地がないわな。けどね、これが5人の施設を作ろうと思ったら、駅前でも作れませ。100人の施設をつぶしちゃって、5人の施設20戸作ったらいいねん。

最近の一番新しい療護施設の考え方は、この地域が療護施設になるというのが、新しい考え方。アメリカはね、これをずっとグループ・ホームという形でやってきたのです。

日本のグループ・ホームは、身体障害者用のグループ・ホームというのがないんですよ。

今ね、実はね、厚生労働省は考えています。どういうふうを考えているかという、知的障害者にはグループ・ホーム、身体障害者には小規模型療護施設というのを本格的に考えています。私自身も、それ考えています。施設が悪いんじゃない。ただ100人いるのが、まずい。50人もまずい。これがね、たとえば5人ずつ20戸作ったら、職員さん、20等分して散らばったらいいんですよ。そしたら楽ですよ。ボランティアさん入りやすいですよ。ホームヘルパーさんも入りやすいですよ。

ね。私はそういう世界に、これからなっていくと思っています。だから、それでね、大規模施設は、必要なくても僕はいると思います。たとえば、医療行為が必要な人。

たとえば、うちの支援センターに、こういう依頼があったんです。「地域に住んでいるのだけでも、家族がもう流動食しか食べれない。そしたらミキサー食を、ミキサーのごはんを配達してくれるお店がないか調べてくれ」と言われたんですよ。うちの事務所、そのとき4人いたんです。あらゆる所に電話しました。そしたら1ヵ所だけね、「この間までやっていたんですけどねえ」。あのね、ミキサー食ってものすごく手間がかかるんですよ。だから1人や2人分のミキサー食をくばるのは無理なんです。

私たち頑張って調べたんですけども、結局なかったです。「お母さん、もう少し頑張ってくださいね」という結論しかだせなかった。けどね、そんな人のためには、私は施設はいいと思っています。施設はミキサー食を作れるんやもん。そしたら、別に施設に入らなくても、施設から配食サービスをしていただければいいんですよ。

私もいろんな施設行って、その施設の給食を食べるんです。私、今までで一番いややったのが、うどんの水炊き。うどんをミキサーにするくらいなら違うメニュー作ってあげてよ。けどね、これからはそういうのはなくなるね。

僕は、地域の小さな施設が増えてくるんじゃないかな、と思いますし、日本でも十分可能性があると思うし。それから、これから住んでいくのは、そういうところですよ。それで、やっぱり、そういうところではね、本人さん同士の助け合いも絶対大事だし。

これはね、高齢者のやつと、ちょっと違うんですね。高齢者の、たとえばボケ老人が集まって住むグループ・ホームと障害者のとはちょっと違う。もうちょっと表に発信していかないといけない。グループ・ホームの中だけで終わるような感じではいけないと思うし。その施設から外に発信していくような、感覚というのが障害者福祉には必要なんですけども。多かれ少なかれ、これからはそういう時代になっていくと思いますので。皆さんも、小さな施設に移っていく可能性もあるし、そういう施設が、これからの理想の施設になるんじゃないか。

そうしたら、地域の中に大きな施設もあって、町のなかに小さな施設もあって、それで、どこに住むかは自分で決める、っていうのがこれからの時代じゃないかなと思います。選択肢が増えることが大事なんですよ。施設なのか、地域なのか、親と一緒に住むのか、この3つだけでは駄目なんです。もっと障害に合った仕組みが、僕はあると思ってます。それを求めてこれから勉強して、研究してきたいな、と思っているんですね。

<補足>

セルフヘルプ・グループとは、自助グループあるいは「本人の会」のことで、同じ体験をした人同士が気持ちをわかちあい、孤立感を解消して自分の気持ちをときはなち、自尊心を取り戻す会だといわれています。近年、同じ病気の人や同じ障害のある人同士の会だけでなく、親の会や家族の会など多様化しています。セルフヘルプ・クジアリングハウスとは、セルフヘルプ・グループを専門に支援するサポート・センターのことです。

グループ・ホームにも関心があり、谷口先生からグループ・ホームに関する見解をお聞きすることができ、とても勉強になりました。ありがとうございます。(秋本より)

第10回はくい福祉まつり

2002年9月29日（日曜日）

会場である羽咋市福祉老人センター・羽咋運動公園・羽松高校体育館を主会場に参加66団体で福祉まつりが9月29日の午前10時から開催されました。

来年10月10日（土）・11日（日）には『第12回全国ボランティアフェスティバルいしかわ』（以後、全ボラ）の県内8ブロックで開催されます。（次ページへ）

その中の羽咋市郡の1ブロックとして羽咋市に開催されることが決定されているんです。

そのため今回の福祉まつりは節目のまつりであり、来年の全ボラのイベントも兼ねているのでブルーのTシャツを着たスタッフは大いに張り切っていました。

以下、今回のはくい福祉まつり特別ゲストでした「ラブバンド」を紹介します。彼らは知恵遅れの障害を持ちながら、プロ並みの素晴らしい演奏を聴き、これは「HSK季刊わたぼうし」で紹介しなければと感じ、載せました。

ラブバンドのあゆみ

平成7年5月、知的障害者をもつ父兄の方々が、音楽に興味をもつその子供たちにバンド編成のスタイルで楽器演奏が出来ないだろうかとの願いで、7人のメンバーで結成し、月2回、2時間の練習を重ねてきました。

バンド名も曲目も全てメンバーの総意できめ、自主性を持つようにしています。

最初の曲目はラブバンドのテーマソングになった「上を向いて歩こう」から始めました。この曲の演奏が出来るまで約5ヶ月間ほどかかりましたが「若者たち」「こきりこ」等をマスターした同年12月に「重度心身障害者、親子のクリスマス会」で初のゲスト出演の演奏を行い、メンバーは大きな自信と充実した気持を持ちました。

その後、「聖者の行進」「マイウェイ」「昂」「高校3年生」「翼をください」「イッツ・ア・スモールワールド」など、レパートリーも15曲になりメンバーも27名にふえました。また、一般の方（ラブI）のメンバー10名を含めて約37名余りで、キーボード・ギター・ドラム・ベース・パーカッション・琴で編成しています。

平成10年9月12、日には夢の一つであった初めての「コンサート」。また、平成12年6月4日に、2つ目の夢であった「東京ディズニーランドでの演奏会」が実現できました。

これも偏に多くの方々のご支援のたまものと心より感謝いたしております。

今後も「夢は必ずかなうもの」を合言葉に、さらなる夢に向かってメンバー共々に頑張っ
てまいりたいと願うものです。

★ラブバンドのあゆみのテーマ

「明るく 元気に 自立しようぜ!! 夢は必ずかなうもの」

★メンバー構成

富山大学付属養護学校卒業生、しらとり養護学校卒業生を主に27名（年齢18～33歳）それに一般の方10名（ラブII）を含めて総勢37名。キーボードを主体にドラム・ギター・パーカッションの楽器編成

恒例 東山春充氏2003年カレンダー販売のお知らせ

毎年、『自立』を達成する目的の一つとして口にペンをくわえて書いた絵と文字を載せたカレンダーの販売をしています。そんなカレンダーの販売を始めてから今年で6回目となりました。（カレンダーのサイズは縦70センチ、横50センチ。一枚の価格500円。）

企業向けのカレンダー

企業向けとして僕が口にペンをくわえてかいた絵と文字だけを載せたカレンダーに企業名をお入れして最低100枚で買い取っていただけたらと思います。（カレンダーのサイズは縦70センチ、横50センチ。1枚の価格700円。）

<備考>

このカレンダーの売上金で電動昇降付きのリフト付きワゴン車を買えるといいなあ…こんな大きな夢をもっています。

絵の題材について

僕の町の秋祭りでは、天狗と獅子が喧嘩を演じた獅子舞を太鼓と鐘の音に合わせて夜遅くまで振り続けます。

獅子は富山県の越中獅子なので振りが激しいといった特徴がある獅子舞です。全部の型を練習して体で覚え込んでしまうので太鼓の音で体が動くと言っても良いくらいなんです。年々、若者が減ってしまい獅子舞を存続することが難しくなってきました。

そしてなによりも20歳の秋祭りでは天狗として獅子舞を振っていましたが、その1ヶ月後の怪我が原因でベッドの生活となってしまった大きな現実があります。このようなことがあって、僕にとっての獅子舞を「永遠の魂」へと成長させました。それが絵の題材となったキッカケです。

- 普通は「舞う」というのが正当なのかも知れません。でも小さい頃から獅子舞は「振る」と言っていたので、馴染みのあるこの言葉を使います。
- よく「月日の数字も口にペンをくわえて書いたの？」そう聞かれます。もちろんカレンダーの全て僕が口にペンをくわえて書いたものです。だから、機械で書いたという物は一つもないです。

注文される場合は…

直接という方は…『社会福祉法人 羽咋市社会福祉協議会』へ行かれると手に入ります。

〒925-8506石川県羽咋市鶴田町亀田17番地

羽咋市老人福祉センター内

社会福祉法人・羽咋市社会福祉協議会

羽咋市ボランティアセンター

tel: 0767-22-6231

fax: 0767-22-6189

皆さ〜ん、買ってね。(*^_^*)

《特別体験記》沖縄遠泳リレーに参加して

金沢市・見田 進一

計画までの経過

話が持ち上がったのは昨年(2019年)の10月。受傷より半年が経ち自分の運動レベルの回復も見えてきて退院後の”寝たきり生活、を考えていた頃だった。20歳の頃、社会人水泳大会でお世話になった方と偶然病院で出会った。そしてお互いの境遇など話をした。この方は障害者の水泳チームの指導者だった。そしてとかくひきこもりがちな障害者に”やればできる、ということ伝えていた。僕も”やればできる。きっとできる、と参加を決めた。この出会い・決断がなかったならば今の自分はなかったであろう。

第一日目 7月17(水)金沢雨／沖縄曇り

懸念されていた台風は去り、あいにくの天気ではあるが、この約半年間、頑張ってきた「沖縄遠泳」へいよいよ出発だ。様々なシミュレーションを想定し、段取りをしてきたので迷いはない。気持ちは晴ればれしている。女房は緊張のためか夕べはよく寝られなかったらしい。無理もない。僕と子供とをフォローしていかなければならないから。(チームを含め)アクシデントのない旅行を祈った。

僕はこの旅行を通じて「遠泳リレー」の成功はもちろんだが、他に2つの目標があった。1つ目は「無理のない旅行ができるか?」だ。強行軍になりがちな重度身体障害者の旅行を今一度考え、休息等がしっかり取れるように気をつけるつもりだ。せっかくの旅行もつらいだけにならぬよう、また、帰って来てからの生活に支障を来さないようなスケジュール作りに心がけた。2つ目は「現地調達」ということだ。おむつ、車いす、排泄セットと、とかく装備が多くなりがちななか、例えば、宅配便を利用したり、現地での備品のリース、レンタカーの手配をしたりして「お土産も買えない」状態を回避したく段取りをした。幸いそれらの調査・調達はインターネットで簡単に行えた。いずれ機会があったらご報告したい。

7:00 小松空港集合。

まずは、起床から最初の減圧をすべく医務室を尋ねるが、小松空港にはそれらしいものはないとのこと。テロを意識してなのか？しかたがないので国際線ロビーで休むことにする。実は沖縄空港にも医務室がなく（もちろんDrも）急病人はどうするのかと心配した。搭乗手続きもX線検査官の横暴で事務的な態度に憤慨するも、これまでそれでよしとしてきた自分たちにも、少しは責任があると思いとどまった。飛行機内へは専用の車いすで乗り込むわけだが、重度身体障害者の席は窓側と決められているらしく（どうやって障害レベルを決めるのかは疑問だが）慌てて待ったした。僕を奥の窓ぎわに移乗することは不可能である。また、離着陸の際「シートを起こせ」と言われたが、腹背筋の効かない僕は前のめりとなるためこれまた不可能である。急進、通路側でシートをリクライニングし一路沖縄へ。

到着後、まず県庁へ表敬訪問する。庁内はバリアフリーで石川県庁もこのようになってくれば、と思った。ホテルへ行く前に会場となる「あざまサンサンビーチ」を視察。バリアフリー化された南晴らしいビーチだ。あさってに予定されている「リレー」の無事を祈って後にする。今日から4日間宿泊をお願いする「ホテルサンライズ知念」は岬にそびえる白亜の城だ。手配していたエアマットも用意されていて一安心。郷土色豊かな食事に舌鼓を打ち初日が終わった。

第二日目 7月18日（木）曇り

台風の影響か天気がすっきりしない。早く青い沖縄の海にご対面したいものだ。今日は町役場へのあいさつ後、海上訓練を行う。他のメンバーも恐怖心からか、なかなか入水できずにいたが、同行のボランティアさんの導きにより次々に入水、歓声をあげた。沖縄の海も僕らを優しく迎えてくれたようだ。明日はいよいよ本番。最高のお天気の予感がした。

第三日目 7月19日（金）快晴

予想どおりの最高のお天気。絶好の遠泳日和。13:00スタートなので軽い食事後、ウォーミングアップを兼ねて海水浴。昨日はドキドキしていたからわからなかったが、海水だとよく浮く。さすがに首につけている水没防止の浮き輪をはずすことはできないが、沈むことによって生じる抵抗は少なくなるようだ。（もっともそれによるスピードアップは期待できないが。笑。）逆に冷静になると感じる潮の微妙な流れ。どうもこいつが僕達の最大の敵となるようだ。（というのも波はほとんどない）そこは先導をお願いした知念海洋レジャーセンターにまかせるしかない。不安と希望に満ちた僕達の「沖縄遠泳リレー」が今、始まる。

12:00知念村村長の挨拶により記念セレモニーが行われる。地元園児たちによる“カニ”の放流だ。ただ園児達の興味は少し他の人とは違う僕にあるようだ。「ほら、よそ見をするとカニにかまれるぞ。笑。」取材のヘリコプターもやってきて気分も最高潮に達した。“号砲一発。第一泳者スタート。ビーチ沖1kmの浮かび島まで往復2kmを10人で泳ぎきる。第六泳者の僕は急いで送迎船に乗りこみ、いざ浮かび島へ。僕にはトライアスリートの友人がサポートしてくれる。練習もした。家族や他のメンバーもみんな応援してくれる。不安は消えた。第五泳者とタッチし50m先の中

継点まで夢の達成カウントダウン。30分程泳いだか、船やサポート隊の歓声につつまれゴール。やればできるんだ。どさくさにまぎれて少し泣いた。そしてリレーは予定より1時間も早くゴールした。選手は「みんなの応援が力になった」声をそろえて言った。そう、泳者もサポートも応援もみんな一緒にやりとげたのだ。

その夜、さすがに疲れたのか一生忘れられない思い出を胸にぐっすり休んだ。僕はその夜、「二回目の遠泳」を夢の中で達成した。

第4日 7月20日（土）快晴

今日は昨日の興奮をそのままに、初めてのスキューバダイビングに向かった。”ケラマ諸島、を潜るのだ。残念なことに船はバリアフリー船とうたっているが、僕にはとても厳しいものだった。(乗船、船内、用意された車いす、インストの説明不足…)ただここにおいてもスタッフのチームワークは完璧だ。やはり最後は人と人との助け合いなのだ。そう実感した。バディ(一緒に潜る人)を信頼し「究極のバリアフリー」の世界へ。僕は魚になった(水深10mまで。呼吸は最初難しいが呼吸にハンディがある僕でも潜れた)次は「石川の海に潜る」と誓った。体調を配慮して翌日に順延していた「沖縄遠泳リレー達成記念パーティ」が盛大に行われた。夜遅くまでいつまでも続いた。楽しかった旅行も明日まで。「たのむこのまま時間よ止まれ」そう心でつぶやいた。

第5日 7月21日（日）快晴 最終日。

楽しかった思い出をカバンに詰め込んでいざ小松へ。飛行機に乗り込むみんなの顔からは疲れなど見えない。夢を成し遂げた自信で輝いていた。「無理のない旅行」はプランニングの時点での無理のないスケジュールと気がねのいらぬ方の選出とで完全にクリアできた。「現地調達」はインターネットの活用でスムーズ且つ十分に利用することができた。こうしてとてもできないと思っていた沖縄旅行が無事終了した。この経験をより多くの方にお伝えして今後の活動の参考にして頂ければ幸いです。

またこの旅行に際してご協力頂いた多くの方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

ーホテルサンライズ知念ー

ホテルサンライズ知念

<http://www.ii-okinawa.ne.jp/people/hsunrise/>

知念海洋レジャーセンター

<http://www.growcom.co.jp/chinen.html>

知念村ホームページ

<http://www.vill.chinen.okinawa.jp/>

みんなの広場

「秋山ちえ子の談話室」の放送が終了して

編集責任者・桶屋善一

先日、10月4日の第12,512回の放送を持って最終回となりましたTBS系列ラジオの「秋山ちえ子の談話室」。私がこの番組を知ったのは小松市瀬領町にありました第二石川整肢学園にいました16歳の頃でした。

毎朝10時におばさんのような声がラジオから流れてきていました。その頃は聞いていても意味は分かりませんでした。しかし、聞いていると何か暖かいものを感じていました。

この番組は政治、福祉、生活などを秋山ちえ子さん（85）が女性、主婦の立場から、私たちに45年もラジオを通して語りかけてくださいました。毎週木曜日の本の紹介を聞いて「HSK季刊わたぼうし」で何冊かを紹介させていただいたこともあります。

また、秋山さんがMROラジオの「日本列島ここが真ん中」に応援団としていらしていた頃に、電話でお話をしたことがあります。

私が18歳の時、2年遅れで石川県立養護学校の高等部に入学、夏休みに家でラジオを聞いていましたら、8月15日の終戦記念日になると土家由岐雄（つちやゆきお）さんがお書きになった「かわいそうな ぞう」という、戦争のために上野動物園で飼われている動物が殺されるという童話が朗読されていたのです。それ以来、毎年、終戦記念日には聞いていました。

もし、上野動物園に爆弾が落ちて動物が暴れ出したら、地域住民に被害が及ぶために、動物を殺すことにしました。

3頭の象も殺されることになりました。毒薬の入ったジャガイモを与えるのですが、頭のよい象はジャガイモを食べませんでした。次に毒薬の入った注射を打とうとするのですが、象の皮が厚くて注射針が折れてしまうのです。

そして、象使いはエサを与えない方法を考えました。象はぐったりした体で芸当をはじめたのです。芸をすれば昔のようにエサがもらえるとと思っているのです。それを見た象使いは、いたたまれなくなって象にエサを持って行き「戦争をやめろ、戦争をやめろ」と叫ぶ童話です。

この童話を聞いたとき、なぜか、胸が熱くなり、涙がこぼれてきました。戦争を知らない私ですが、戦争の怖さを少し知ったようです。

「かわいそうな ぞう」の朗読を毎年聞いていましたが、今年で最後だと思えますと、寂しく感じています。

秋山さん、長い間いろいろな情報、知恵、励ましを与えてくださり、ありがとうございました。番組終了後、お体に気を付けてお過ごしくださることをお祈りしています。

絵本 かわいそうな ぞう

つちや ゆきお ぶん

たけべ もといちろう え

発行所：金の星社 定価（本体900円十税）

商魂のバリアフリー

松任市・宇野 満雄
(養護学校教員)

私は昨年度から、思いもかけなかった手取川を渡った通勤をしています。小・中・高合わせても児童生徒は16名で、全員が重度重複障害児です。

さて、心で涙したエピソードを紹介しましょう。それは6月14日のことでした。全校で香林坊一片町方面に出かけました。オープンカフェで水分補給したり、アトリオで運動会用のユニホームを買ったりしました。

昼食時間になりました。私たちのクラス（車いす3人）はめん類を食べようと、店を捜しました。なかなか適した店が見つかりませんでした。ここが最後のチャンスと決めたのはDAIWAの地下にある「加登長総本店」でした。「車いすなのですが、入れますか？」とのれんをくぐりながら尋ねました。すると、店員さんだけでなく、店長さんまでが店から出ていらっしゃいました。私は『こりゃ、丁重に断られるわ。だって、こんな掻き入れ時に狭い店内に、車いすで全介助のお客を、しかも3組も同時に受け入れるはずがない』と直感したからです。私には、この道での30数年間の思い出の中に、たった一人の車いすの児童との入店さえ断られた、苦い体験がいくつもあったからです。

「しばらくお待ち下さい」と言って店長さんや店員さんは店内に去りました。それから2分間ほどだったでしょうか。私にはそれ以上に長く感じました。店員さんが「どうぞお入り下さい」と、笑顔で迎えに出ていらっしゃったのです。のれんをくぐると、先程の店長さんからも「いらっしゃいませ！」の威勢の良い声が届きました。店内に入ると、3ヶ所にバラして案内されました。食卓や椅子をずらしてありました。そのセッティングに感動しました。車いすも止めやすく、食事介助もしやすいだけでなく、一般客も出入りがしやすいのです。

店員さんが注文を取りに来ました。ちっとも固さがありません。店内を見向すと、すぐ近くのテーブルには先に入ったお客さんが食べていらっしゃいます。次々とお客さんが入っていらっしゃいます。しかし、私たちを発見して、入るのを躊躇したお客はなかったように思います。注文した品が運ばれてきました。「取り鉢をお持ちしましょうか?」「ありがとうございます」……この20分程後にハプニングが起きました。

食べ終えたT君が出口へ向かいました。通路反対側に、食べ終えたお客さんの、お汁の残った丼鉢がありました。T君がパッと手を出して丼鉢に手をかけて、ひっくり返しました。汁はお客さんの膝にもかかり、床に落ちて割れました。それと合い前後してS君が挿間性のでんかん発作で、私のちょっとした目を難した隙に、取り鉢の中のソバをムンズと掴んで店内に投げつけました。歌舞伎の蜘蛛の巣のように、周囲のお客さんの所に散乱しました。

T君の介助をしていた先生も、S君の介助をしていた私も、被害を被ったお客さんに謝りながら現状修復に努めました。鉢を割ったことも詫びました。その時の反応もまた印象的でした。まず、お客さんです。誰一人として被害に対する“大きな声”はありませんでした。次に店長さんたちです。あっちでパシャ、バリン、こっちでパーッ！ にもかかわら

ず、少しも慌てず、笑顔を崩さずに片付けながら、お客さんや私たちに対応なさったのです。「すみません」「なあん、いいんですよ。気にせんといて」このひとことに救われました。

出しなに「ありがとうございました。またどうぞ」と声をかけられました。私には『なあに、接客マニュアルどおりに言っているのだ。』とは決して思いませんでした。同僚も言っていました。『さすが、店員教育が出来てるなあ。よし！。個人的に金沢へ出かけることがあったら、必ずあの店に立ち寄ろう。あの時と同じようにソバを注文しながら、あの時の温かい気配りに改めてお礼を述べよう。』と。

星野富弘さんの鈴の鳴る詩画集

七尾市・折坂 昭子

私は途中で歩けなくなって、10年が経ちます。車いす生活になって2年が過ぎました。青山彩光苑に入所した頃は何をして良いかわからなかったけど、星野富弘さんの花の詩画集に出会ってから、中でも鈴の鳴る道詩画集の90～91ページにかけ、私は電動車いすで道路を走っていたら、小さなでこぼこがあり、私はそこを通り抜けようとした。

そのとき、車いすにつけた鈴が「チリン」と鳴ったのである。心にしみるような澄んだ音色だった。

悩みがあるときに、何回でも90～91ページにかけて出ていたところ、何回でも読み直します。、。そうすることによって、心が静かになります。

食べ物談話・梨

管理栄養士・秋本 信子

金沢駅西のバイパス沿いに、自家製の梨を売るテントが並んでいる。9月も半ばになると、新水・幸水が終わり、今は豊水である。この三つは「三水」と呼ばれ、ほぼ30竿程前から一般に知られるようになった。

「長寿」という品種は、長十郎と君塚の掛け合わせであるが、あまり店頭で見かけない。三水が一般に出回るまでは、長十郎という皮が赤い梨がよく売られていた。長十郎は、東京の多摩川の近くに住んでいた当麻長十郎が作ったもので、作りやすく味も良い品種だったため、急速に全国に広がったという。

二十世紀という青梨は、今でも根強い人気を保っているが、発見者の松戸さんは東京都と千葉県との境の江戸川に住んでいた。あるとき、自分の家のゴミ捨て場に、梨の苗が生長しているのを見て、その苗を育てたところ、長十郎にない水気と上品な甘味をもった梨が生まれたとされている。

一切れの梨のルーツに思いをはせて、日本人の心をめしあがれ。

マイ・ブックスルーム 歌集「茄子の花」

中村 貞夫著
発行:自費出版

茄子の花ついたと告げるうれしげな
妻の声聞き心が和む
夫婦愛を茄子の花に託した心温まる三品。

歌集『茄子の花』を一読して驚いた。歌友から贈られたものや、購入した歌集もかなりの数になるが、英訳入りの歌集を読むのは今回が初めてである。自筆のスケッチも色紙も達筆だ。現代語を自由に使いこなした作風は、読んで楽しく、そこはかとなき哀愁が読み手の心をつ打つ…。人生の裏も表も知り尽くした歌詠みである。

一読の価値ある歌集として、拙文を措きたい。(山本光男)

中村さんとは、春に私の通っている教会の礼拝で出会い、この本をいただきました。警察官を定年退職をなされてから短歌作りを楽しんでいらっしゃいます。(桶屋)

編集後記

北朝鮮訪問による日本人拉致事件の報道を聞きながら、ご家族の思いを考えますと胸が痛んでくると同時に、私たちが平和で過ごせることに感謝しなければと思います。一日も早くご家族の所に帰られるようお祈りします。

さて、9月に石川テレビで放送された「沖縄遠泳リレー」の見田進一さんに体験記を寄せていただきました。テレビをご覧になった方も多いと思いますが、文章にすることで違った味わいを感じていただければと思います。見田さん、ご投稿ありがとうございました。(Z.O)

川柳裏表紙

台風は 日本の秋を 恋しがり

今年は7月に3つの台風が日本列島に、接近または上陸しているが、台風と言えば9月1日(二百十日)を中心に襲来する。南の海上に発生した強い暴風雨である。その中心付近に一つの目を持っている(風のない晴れた所)。まわりの高気圧、低気圧によってその台風の進路が変わる。8月、9月が日本列島に来るような気圧配置になる。台風を擬人法による穿(うが)つた見方である。

近作に“ヘクトパスカルやせて日本恋しがる”や“台風の進路に好きな女(ひと)がいる”などがある。(比)